

明治三十三年三月ヨリ三年間佛國留學被命 助手 和田英作 鹿兒島士
明治三十四年十一月ヨリ二年間佛國留學被命 助教 白井保次郎 愛

媛平

〔東京美術学校一覽 從明治三十四年
至明治三十五年〕

このほかに岡田三郎助も滞仏中であつたが、彼の場合、国費留学期限は
本年五月までであつた。

3 本年度内卒業

明治三十四年度の卒業式は七月十日に行われ、本年度分の卒業制作を校
内に陳列し、父兄および有志の人々に縦覧させた。卒業生の内訳は日本画
十二名、西洋画五名、鍍金・図案・塑造各一名、木彫三名、彫金三名、撰
科二十五名、図画講習科一名である。

4 改築目論見書

目論見書の内容は不明だが、明治三十四年七月二十四日付『読売新聞』
に

○東京美術学校の新築計畫 東京美術学校へ今年も又新築豫算を主務省
に請求する趣なるが、若し希望を達する時ハ現時の校舍へ一條の通路を
以て中斷せらるゝ筈、即ち道路を距て校舍を建つる計畫の由

とあるところよりすれば、現在本学敷地を二分している道路（東京国立博
物館↓桜木町）の敷設計画はこの当時からあつたことがわかる。

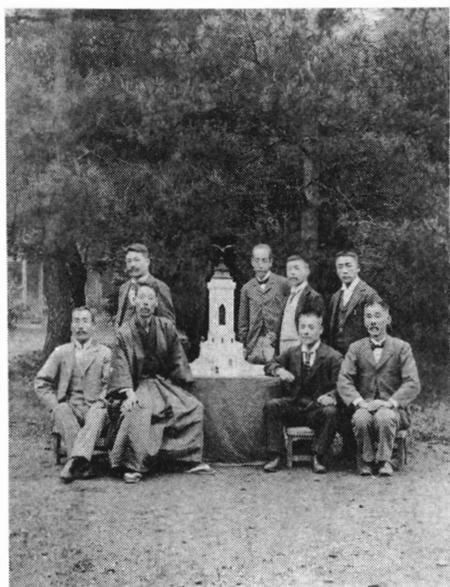
5 依囑製作

本年新たに依囑を受けたものについて判明している事柄を記す。

征清紀念銅標 金鵝造型主任沼田一雅、製作主任桜岡三四郎、製作担任

津田信夫

仙台昭忠銅標（仙台青葉城址に建立） 図案河辺正夫、原型沼田一雅、鑄
造主任桜岡三四郎、同担任津田信夫および本校卒業生
故佐久間貞一胸像 原型製作黒岩淡哉



昭忠標（雛型）製作記念

左より河辺正夫、桜岡三四郎、久保田鼎、一人お
いて沼田一雅

このうち、特に規模の大きい「仙台昭忠銅標」は各紙がとり上げてい
る。左記はその中の一つである。

○宮城縣昭忠碑の建設（挿圖參看） 宮城縣の官民有志が第二師團所管
の軍人軍屬にして戦死せし者の忠魂を弔慰し勲績を昭表する目的にて組
織せる昭忠會にては豫て仙臺市舊青葉城址なる招魂社社殿の背後の最高
丘に一大紀念碑を建設せんと一昨年十二月其設計圖案を東京美術學校に
依頼し來りしを以て同校にては圖案科教師河邊正夫氏を主任として之が